

IEA Electricity Market Workshop

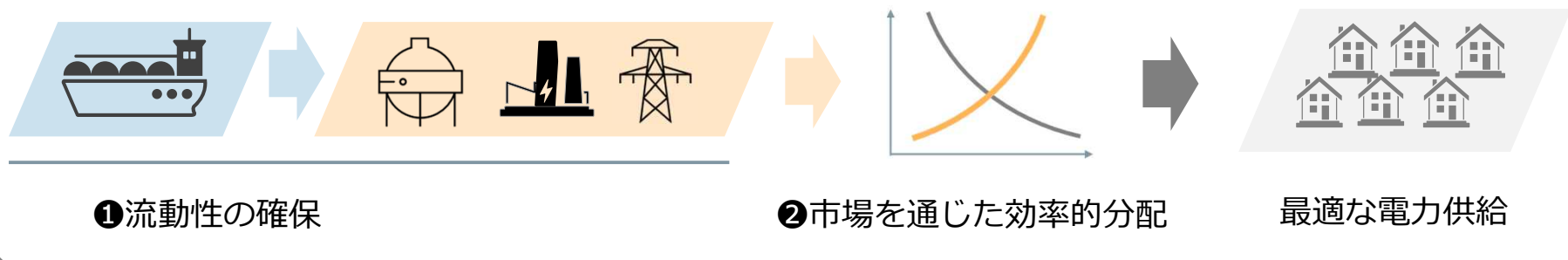
- 日本における中長期電力取引 -

2025年12月4日
株式会社 JERA

電力市場が正常に機能するためには流動性の確保が必要

- 日本では、『Seaborne燃料に支えられた流動性供給』を前提に、電力市場の設計が必要
- 効率的配分を目指す競争促進により事業予見性が低下、これが逆に流動性確保を難しくするケースも

電力サプライチェーンイメージ



欧州のガスパイプライン網



評価軸	評価
アクセス時間	◎
価格	○
分散調達	△

ガスPLは迅速かつ安価に燃料にアクセスできる反面
資源国との関係が固定的

日本のLNG輸入先（2021年度）



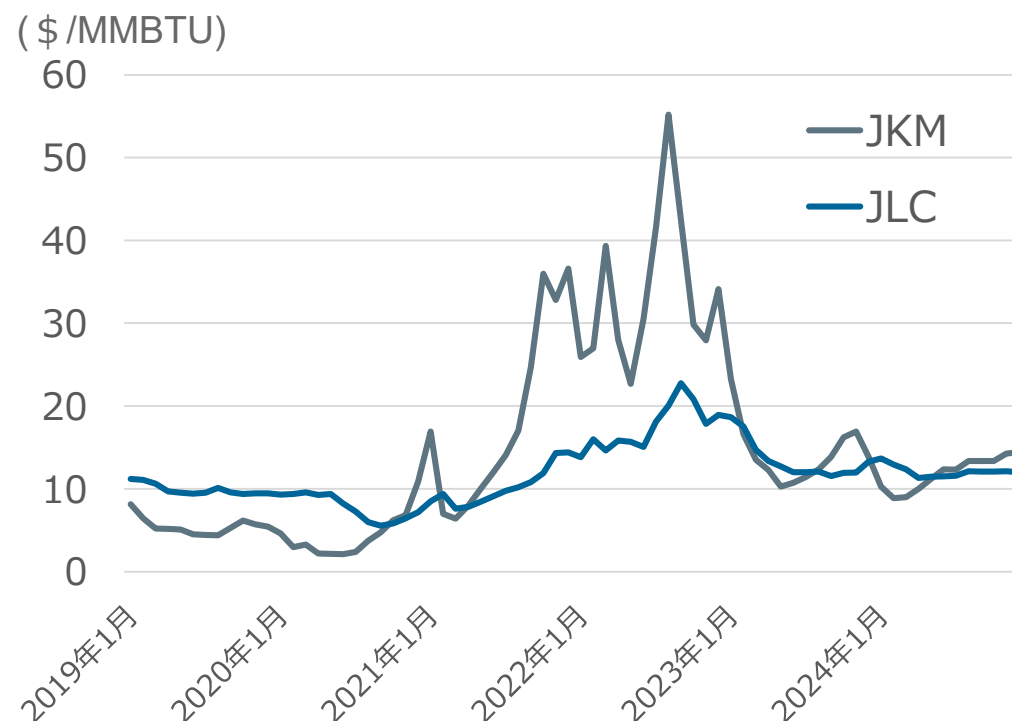
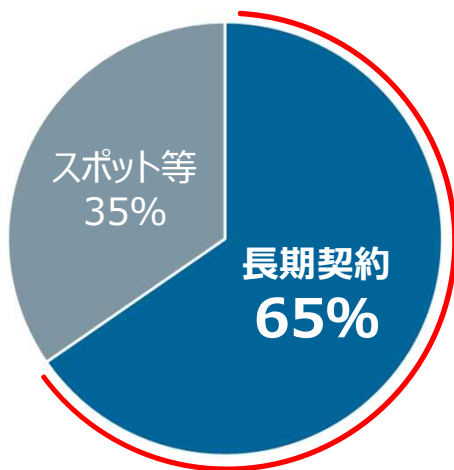
評価軸	評価
アクセス時間	△
価格	△
分散調達	◎

LNG(液化天然ガス)は調達に1か月以上は必要で、液化・
輸送コストも嵩むが、調達先は(PLと比して)多様化しやすい

流動性確保のためにLNG長期契約を用いる ～価格～

- LNG確保には大別すると長期契約とスポット契約の二つの方法が存在、両者は価格が基本的に異なる。長期契約が常に安価なわけではないが、歴史的に価格のボラティリティは長期契約の方が低い
- ①日本経済への影響という観点から短期的な価格変動を抑制するべき、②市場構造と全く異なる調達行動は不安定、という二点から、長期契約を主体とした流動性確保が望まれる

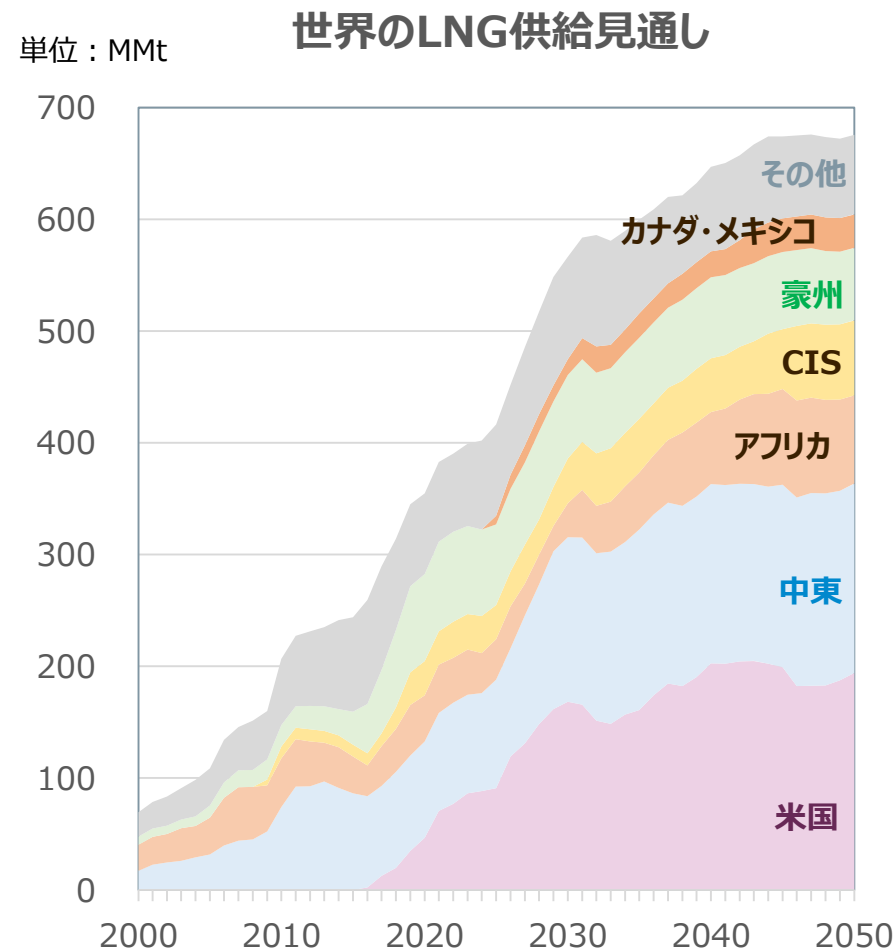
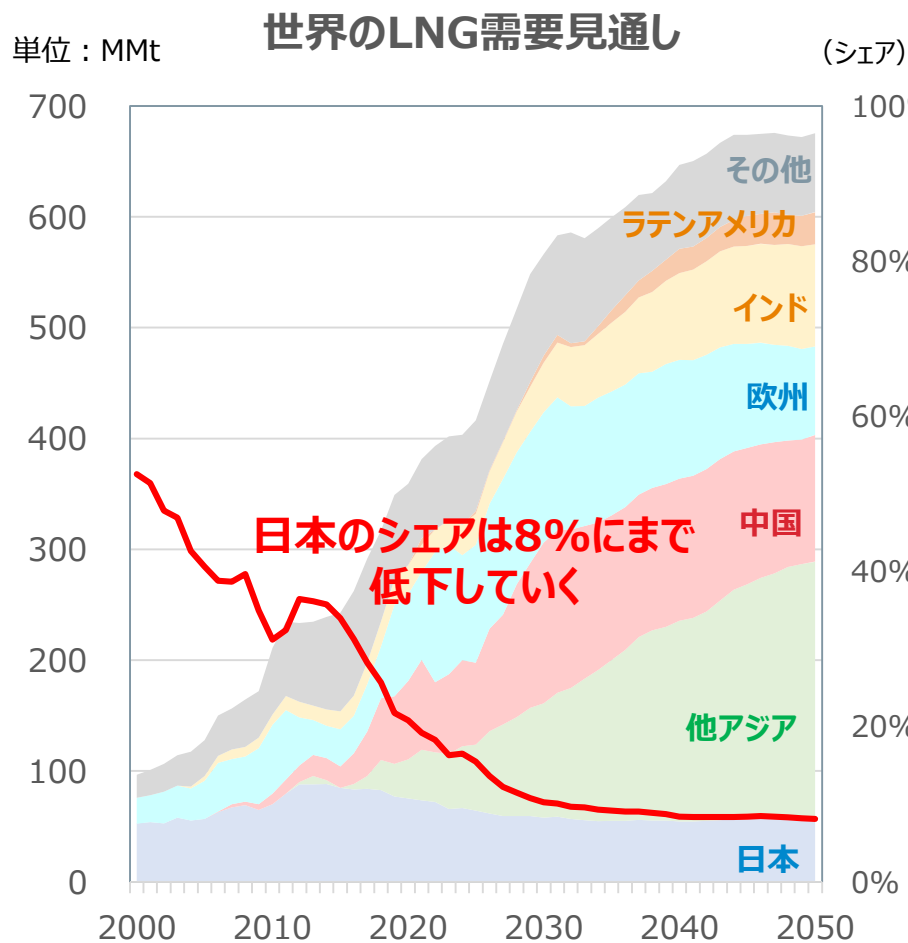
世界のLNGマーケット(2022)



出典) SPGCI、財務省貿易統計データをもとに作成

流動性確保のためにLNG長期契約を用いる ～長期需給構造～

- LNG市場は今後1.5倍に拡大が見込まれるが、日本のプレゼンスは低下
- 一方で、供給側は多様化が進まず、産ガス国や主要プレーヤーとの長期安定的な関係が求められる

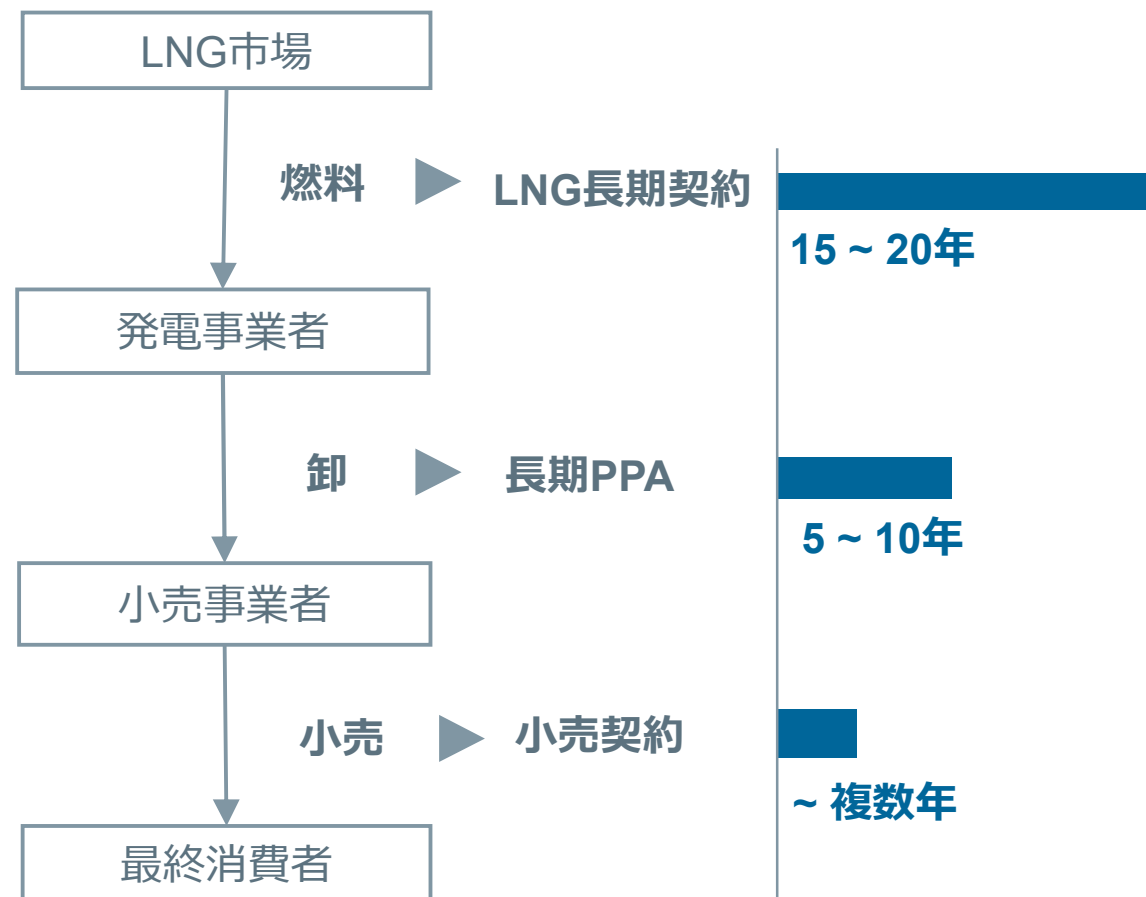


長期PPAとLNG長期契約_リスクのCascading Down

【LNG長期契約保有のリスク】

(例)

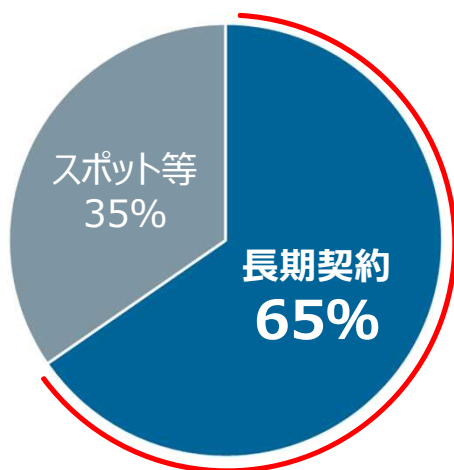
- ・暖冬による余剰発生
- ・景気低迷による余剰発生
- ・脱炭素に伴う将来的な余剰発生



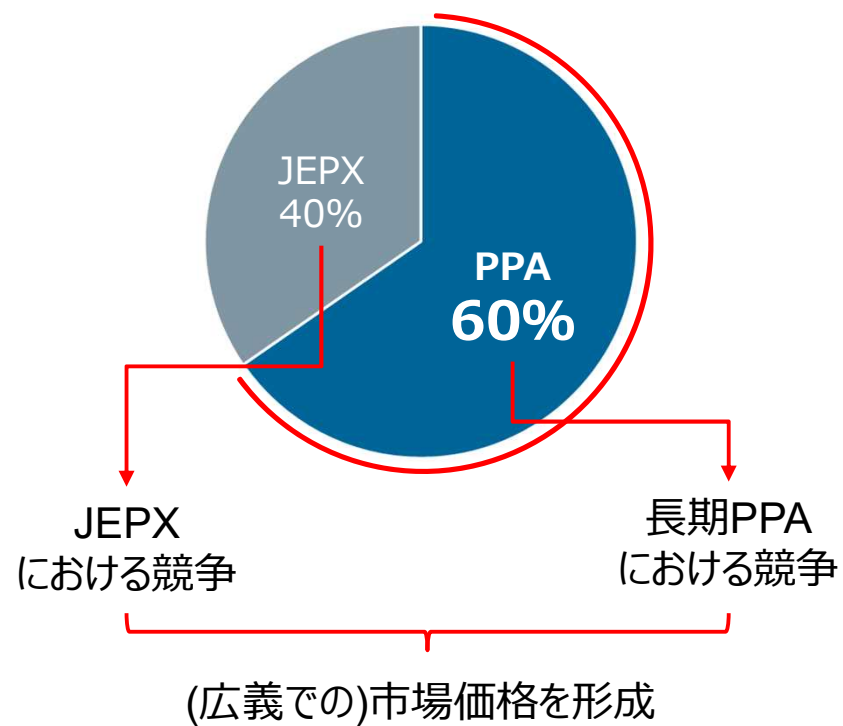
長期PPA間の競争

- 長期PPAがイニシャルな供給力確保手段となり、その長期PPA間で競争が行われている状態が、日本の電力市場において、①流動性確保と②資源の効率的配分、の同時解ではないか

世界のLNGマーケット(2022)



日本の電力市場(2022)



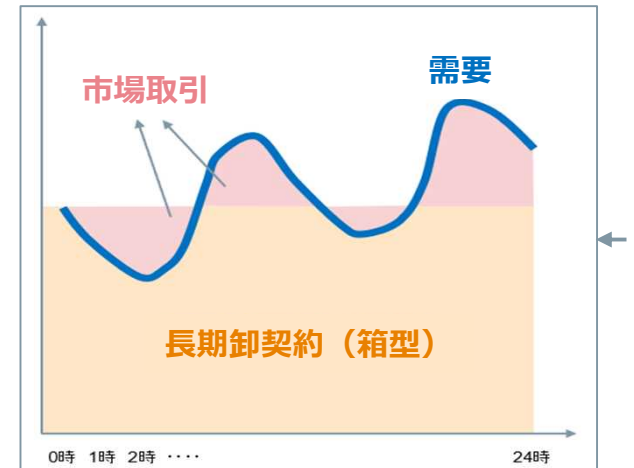
内外無差別な卸売りへの取組

- JERAは、2026年度以降を受給対象とした内外無差別な卸商品を複数回販売実施
- 結果として、2026年度以降は内外無差別な条件で数十社の小売事業者と契約締結



短期市場発達と長期PPAの関係

JEPX取引流動性



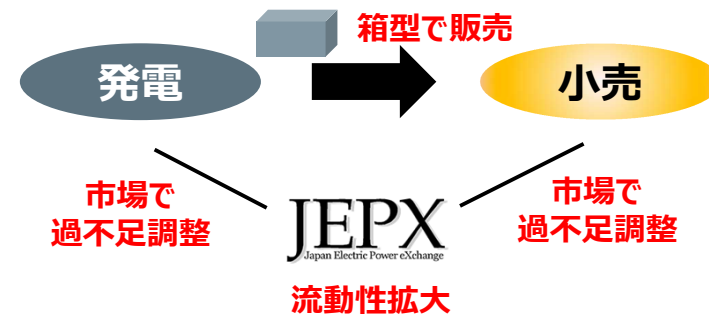
2020年度以前 :

電力市場の流動性が乏しく、PPA上で直接過不足調整する必要



2021年度以降

市場の流動性が拡大し、発電/小売が互いに過不足を市場で調整する時代に



Jera

Energy for a New Era